

教育勅語煥發第四十周年紀念を迎へて

柳 井 慈 要

願れば封建三百年の夢勤王の大鐘に打破れて王政古に復し、維新の大業成つて親政は行はれたり。「智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ」との五ヶ條の國是は歐米諸國の文明を吸収し、普く學校を興し、武備を整へ、國民の智力は頼みに向上し國力は諸外國と對峙するの殷盛を見るに至れり。然しながら外國文明の盲目的崇拜と模倣とは國民をして採長補短の實を忘れしめ、在來三千年の良風美俗に悖り教育方針に其の歸結を失ひ、人々は適從する處に迷ふの有様となりぬ。若し之を放置せんか皇國の前途は實に累卵の危期に頻すべし。是に於て不出世の聖帝明治天皇は二十三年十月三十日、教育に關する勅語を煥發せられ、國民の猛省と國民教育の指針を示されたるなり。是に於て教育界は暗夜に燈火を得たるが如く、赤子の其の母を得たるが如く、渡りに船を得たるが如く上下共に相慶するに至つたのである。而して昭和五年十月三十日は實に此の千載不磨の大聖典煥發第四十周年に當れり。我等國民の正に膽に銘じて紀念すべき聖日なり。

今や舉國以て此の千載不遇の此の三十日を紀念すべく諸種の催しあるを見る。然しながら徒に外形的物質的の紀念事業等以て能事終りとなすなれば、其れは紀念的意義を缺くものである。現下の口

本は海内海外の如何たるを問はず實に多事多端の秋である。教育界は左傾的思想充滿し、人倫影を沒して本末を亂し、「臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス乃至父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ恭儉己レヲ持シ乃至德器ヲ成就シ云々」の聖訓を冒瀆する者すらあり、國民思想の怠廢は明治のそれに比して其の極に達しぬ。最高學府の教育者の中に教育勅語の眞意を解せざる者さへ少なからざる如きは言語道斷、實に昭和聖代の一大不詳事である、と言はずして何ぞや。「浮華放縱ノ習漸ク萌シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスムハ或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル」と、聖帝の宸襟をなやませ奉るこそ畏き極みなり。

是に於て我が忠良なる臣民は深く内省し殊に本化日蓮の門下にして立正安國の祖訓を体するものは明治聖帝の聖訓を遵奉し、銳意以て國運の發展と國民精神の向上に努め、今上帝の叡慮を安じ奉ると共に、協力一致して愈々我が國光を海外に發揚し、勅語の御趣旨を廣く内外に及ぼし、次で之を中外に施して悻らざらしめ、世界の平和と人類幸福を將來せしむるこれ即ち我が國民の教育勅語煥發第四十周年を紀念するの最大要素であらねばならぬ。斯くしてこそ始めて勅語煥發第四十周年の紀念をして、永遠に最も意義あらしる所以にはあらざるか。